

今を未来に

実は、先週の金曜日のことですが・・・

実は、先週金曜日のことですが、校舎内・教室内、運動場・体育館に関わらず、けがをする子がとても多く、首より上のけがについてはお医者さんに診ていただくようお願いするということですが、この日だけで5件も続きました。安全・安心な生活が送られるようにということで、職員はもちろんですが、運営委員会の子どもたちも「チームGAKUAN」（学校安全）を組織して、休み時間にけがをしないようにという取り組みを続けて来てくれた2学期で、その効果が見られるようになっていたのですが、「けがが続くなあ。」と感じる日となってしまいました。



月曜日の朝の会で、各クラス担任から改めて注意喚起を行うよう指示し、どのようなけががあったのか、防ぎようのないけがもありましたが、ちょっと気をつければ防ぐことができたけがもあったこと、具体的にどうしたら防ぐことができたのか指導したクラスもありました。例えば、プリントを配布する時に、プリントを勢いよく後ろの子に渡す子がいたり、係の子がプリントを配る時にその子の顔にめがけるように配ったりして、プリントが目にあたるといったことがあります。プリントを回す時には、プリントを渡す子の顔を見て「はい、どうぞ。」と両手で渡すことを徹底するよう、子どもたちには確認をしました。子どもたちが使っている用紙は、肉眼では見えにくいぐらいの小さな鋸の刃のようなものがついていて、眼球に当たれば角膜に傷がつきます。半日ほどすれば、確かに痛みは消えていきますが、その間に目をこすったりすると、角膜にばい菌が入り、その後の視力障害を招く恐れがあるため、学校では必ず眼医者さんに診ていただくことをお勧めしています。

また、年末を迎え、お家の方も仕事を抜けることができない方や、連絡がすぐにつかない方が多くなってきています。そうした時は、けがの状況、その子の様子によっては学校職員が医者へ連れて行くこともあります。金曜日は体調が悪くなってお迎えをお願いする子が重なり、けがをしたことを伝える電話が繋がらない方もみえて、保健室・職員室は大変でした。そして、残念なことに月曜日にも午前中に3件立て続けにけがをする子がいて、教頭・校長から緊急放送を2回も入れる事態になってしまいました。

2学期はあと3日間となりましたが、3学期は今以上に忙しさを感じる学校生活となります。けがを防ぐことについては、3学期の学校生活の中で、子どもたちと気をつけることとして、具体的にどんな時にけがが起こっているかを考え、減らしていけるように取り組んでいきます。病院の方にはできればお家の方に連れて行っていただいています。大変ご迷惑をおかけしてはいますが、特に病院へ行くようなけがをする時は、相手の子がいる場合も多く、相手の子がいる場合は、「原則病院へ行ってください。」と、お願いをさせていただいていますことは、申し訳ありませんが、ご了解ください。

防犯教室（3年生）12月17日

3年生は、4限目に学年で視聴覚室に入り、四日市西警察署と保々駐在所から計3名の署員の方に来





校いただき、防犯（自分の命は自分で守る）教室を実施していただきました。子どもたちには、まず「不審者」とはどんな人のことと思っているかを聞いてもらいました。「知らない人についてくる人」「意味もなく連れて行く人」「お菓子などで誘って来る人」「車に乗せようとしてくる人」「さわろうとしてくる人」「写真を撮ってくる人」「声を

かけてくる人」とどんどん答えが出てきます。「それでは・・・」ということで、写真に写っている人は不審者かどうかを考え、子どもたちが挙手をしていきました。大前提に「知らない人」となっていたのですが、「マスクをしている人は怖いかな?」「黒い眼鏡をしているから危ない」などを理由にして、だからこの人にはついて行きませんと答えていました。しかし、正解は「誰にもついて行きません。」でした。なぜなら大前提は写真の人全てが「知らない人」だからです。「あっ！ひっかかった」と反応している子も少なからずいました。

その後は、身を守るために、大声で助けを求める練習をしたり、腕をつかまれた時のほどこき方、それを組み合わせて逃げる練習をしました。つかまれた手をほどいて、大声を出すということは、思っている以上に難しいことで、逃げることに気をとられ、声を出すことを忘れてしまう子が何人もいました。やはり訓練は必要だなあと感じました。

人権フォーラム（6年生）12月17日

この時期に、小学校6年生と中学校2年生の人が集まって、人権について考える時間を設けています。今年度は昨日の5限目に小学校の体育館で行いました。1グループには中学生が4名ほど、小学生は3名ほどが入って、全部で18班が出来上がりました。そのグループの話し合いの進行は中学生が行い、うまく小学生の意見も聞きながら、班の話し合いを進めます。今年は、人権担当の中



谷教諭が全体の進行役となり、まず識字について話をしてもらってから、絵本「ひらがなにつき」（吉田一子さんのお話）を小学校・中学校の先生が子どもたちに読み聞かせを行い、テーマ『「文字をまなぶことは・・・」こと』の「・・・」に当てはまる言葉を考え合いました。「人とつながること」「大切、当たり前な事」「幸せに生きる力をつけること」「部落差別に反対すること」「生活を楽しむこと」「人生を楽しくすること」「世界を広げること」「生きること」「ハッピーなこと」「世界の人とつながること」「自分らしく生きるのに必要なこと」などなど、いろいろな答えがでてきました。発表する時にはその理由も教えてくれる班がいくつかありました。この絵本のモデルとなった吉田一子さんは部落差別



によって親の仕事の忙しさから、学校に行くことができなくて、親が働きに行くために、子守りをする必要があり、学校に行くことができず、文字を覚えることができなかつた方です。そんな人が文字を大人になってから獲得するという事は「自分を取り戻す」「人として生きていく権利を奪い返すこと」とよく言われます。皆さんは識字教室で文字を覚えることの意味をどのように考えられますか？